



双松会会報

第28号「双松会」通巻32号「松高北高同窓会報」通巻32号

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 21 - 4888・21 - 0655
FAX: 21 - 4977
印刷 株式会社島根県農協印刷 TEL: 21 - 3476

青春クワイティ Vol. 5

第17期(昭和41年卒)

いつまでも青春



対抗競技が盛んで、サッカー、バレー、バスケット、ボート、柔道などの大会がありました。ポートの練習では同級生の旅館に立ち寄り、おにぎりを作っていた。だき嫁ヶ島へピクニック気分で行って食べたり、柔道の練習では鎖骨を折ったり、

今思えば、よく学びよく遊んだなど感心します。

学園祭とファイヤーストームは二五、二七号に載ってますので省略します。

宍道湖一周は青春の原点とも言える儀式ではなかったでしょう。北高へ入学と共に、体育の時間は毎回栗山一周でした。宍道湖一周の日まで続くのです。

スタート。平田を過ぎた頃から見知らぬ友ができ、共に走り、共に水を飲み、食う。精一杯走りまわります。宍道から布志名の峠は見えるがいくら走っても届かない。やっと届いたら坂道で足の痙攣、幾



井上 一夫

度リタイヤしようかと思いがらたどり着いたゴール。

今春五月五日に還暦記念同窓会を開催しました。卒業生五七二名、内出席者一二二名。恩師は松本幹彦先生だけでしたが、夕六時に始まった宴は翌午前三時まで、四十数年前の一期の一会を肴に飲み明かしました。残念ながら三二名の同級生が亡くなっています。今回同窓会の案内をして三名のご遺族から連絡をいただきました。誠に残念なことです。が、ご遺族の方々から生前の状況と子供様の消息等をいただき感謝無量です。亡き同級生が母校同級生の事を家族にどんなふう話しておられたか伝わって参ります。時々開く同窓会には亡き友の代りに子



供さんが参加したりします。定年退職を迎えた者、再就職をした者、悠々自適の生活をしてる者、そして孫が何人できたなど、還暦を迎え二度目の青春はと聞かれます。高度経済成長期、東京オリピック、オイルショック(私達の学生時代はドル三六〇円で一回の渡航は二〇万円が限度で五五〇ドルしか持ち出せなかった)、バブルの時代、バブル崩壊と経験して来まし

た。団塊世代の私達は還暦までの長くて短い年月、全力疾走が続いた日々ではなかったでしょう。北高時代に走った宍道湖一周、今年もまた同級生のY君が走っています。卒業後も毎年東京から帰って走っています。彼は「これが青春だ」と言います。体が続く限り。私達、還暦を迎えても青春は続きます。

は続きます。



創立百三十周年を祝う

会長

松本幹彦

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

明治九年三月に創設された母校松江北高等学校の創立百三十周年を祝し、昨年の十一月十八日、記念総会を「ホテル一畑」で開催いたしました。百三十年の歴史を祝うにふさわしく、松江中学校の卒業生からごく最近の卒業生まで、三百五十名を超える多数の皆様にご参加いただきました。挙行することができました。

式典の後、松高三十三期(昭和三十七年卒)の商船三井社長・芦田昭充氏に『海運を通して見た世界経済』と題して、記念講演をしていただきました。七つの海をまたに駆けて活躍しておられる芦田氏が、豊富なご体験をもとにグローバルな視点に立って世界経済を読み解くという内容で、一同感銘深く拝聴しました。

記念講演後のアトラクションでは、松江北高校の弦楽同好会と合唱部の生徒さんたちが、それぞれに素晴らしい演奏を披露してくれました。大先輩の皆様が目を細めて聴き入っておられる姿がとても印象的でした。

会場を別室に移しての記念パーティーは熱気にあふれ、先輩後輩の垣根を超えた和やかな交流の輪が広がり、時の経つのを忘れるほどの盛り上がりでした。皆様のご協力により記念総会のすべての行事を滞りなく終了することができました。厚く御礼申し上げます。また、早い段階から綿密な計画に基づいて周到な準備をし、さらには当日の運営にも携わってくださった常任幹事・各期代表幹事をはじめ校内幹事の皆様の熱心な取り組みに心から敬意と謝意を表すものであります。

創立百三十周年という節目の年を機に、「質実剛健」の校是のもと、「文武両道」に励む在校生諸君が、これまでに築立っていった三万八千有余名にも及ぶ卒業生の、英知と汗で営々と築き上げてきた輝かしい歴史と伝統をしっかりと受け止め、受け継いでいってほしいものだと思います。そして、この伝統の上に新しい歴史を創造し、さらに大きく発展させてくれることを強く願うものです。

双松会会員の皆様方には益々御健勝のことと存じます。百三十一年目を歩み始めた本校の教育活動は、歴史と伝統の基盤に立脚したものであり、「質実剛健」「文武両道」の両輪を軸としながら、新たな伝統を築くべく生徒・教職員が一丸となって進取の気概を持って日々精励しています。



「凜として」

校長

佐藤健治

松江北高校は、真理を求め知性を磨く青春の場を提供します。

若者が高い志・大きな夢を持つことができるよう応援します。他人を愛すると同時に自分を愛することのできる人間を育てます。

これは松江北高校の学校案内ホームページに載せている私のめざす北高教育のあり方であり、先般の中学生対象のオープンキャンパスでも話したところです。

質実剛健の伝統を受け継ぎ、文武両道の精神を重んじ、知・情・意の同化の理念に基づいた「高い知性と豊かな心情を培い、心身ともに健康な人格の形成をめざす」という北高の教育理念を具現化するための指針として、生徒諸君にも話しています。私を含めての教職員の自戒の言葉と考えてもいます。

前の二つは、「提供します」「応援します」という言葉で結んでいます。言うまでもなく学校の

主体者は生徒自身であり、教員は支援・サポートする立場ではないかと。この当り前のところが、当り前ではなくなってきたところがある。現在の教育問題の原点があると思っています。三つ目は「育てます」という言葉で結んでいます。私が三年間、生徒諸君に訴え続けているのは、まさしくこの点であり、「他人を愛すると同時に、自分を愛せる人になれる」との願いをこめたものであります。

「あいさつ」のできる人であれ。「本を読む」人であれ。この二つとともに繰り返して生徒諸君に望んできました。

今年の全国総体の、ポルト競技女子シングルスカルの部で、矢地紗代子さんがみごと優勝されました。今夏、島根で開催された全国高総文祭には数多くの文化系の部が出場し、活躍してくれました。総合開会式の生徒補助員は北高生でした。爽やかな笑顔と立ちふるまいを絶賛されました。進路実現において、本校は確実な成果をあげていますが、それと同等に、いやそれ以上に「凜とした若者」が育って来てくれることが私の何より嬉しく思うところでもあります。

是非、皆様方にはこの生徒達を応援していただくとともに、本校に対し今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北高のホームページでは、母校の最新の動向をお知らせしています。また、「外郭団体」もしくは、「卒業生のみなさんへ」をクリックしますと双松会関係の情報も掲載してありますので、双松会会員にとっても有用なものとなっております。

北高ホームページのお知らせ

今回は、近畿双松会のHPも紹介しますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

○松江北高HP



http://www.matsuekita.ed.jp/

○近畿双松会HP



http://www.kinki-soushoukai.org/

事務局だより

一、松江北高校創立百三十周年記念総会について

平成十八年十一月十八日にホテル一畑で創立百三十周年記念総会を開催いたしました。おかげさまで、五年ごとに開催するようになつてから最も多数の会員の方々に参加していただきました。ありがとうございました。

二、お礼
昨年の役員会において、従来記念総会を祝う新聞広告のため

ご協力いただいた松中60期、松中61期、松中62期、松中63期、松中64期、松中65期、松中66期、松中68期、松中69期、松高1期、松高2期、松高3期、松高4期、松高5期、松高7期、松高8期、松高9期、松高10期、松高11期、松高12期、松高13期、松高14期、松高16期、松高17期、松高18期、松高20期、松高21期、松高23期、松高28期、松高32期、松高33期、松高38期

双松会130周年記念総会会計決算書

[収支決算]

収入総額 3,555,793
支出総額 2,651,932
差引残高 903,861...定期預金へ(135周年記念総会用)

[収入の部]

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 増減(Δ), 備考. Rows include 準備金, 総会・懇親会会費, 新聞広告料, 繰入金, 雑収入, 合計.

[支出の部]

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 残額(Δ), 備考. Rows include 新聞広告料, 会場使用料, 設営費, 懇親会費, 講演費, 表彰費, 印刷費, 通信事務費, 会議費, 雑費, 予備費, 合計.

松高43期、松高47期、通信制同窓会

三、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会
平成19年9月29日(出) 霞ヶ関東京會館

○広島双松会の総会
平成19年10月27日(出) 広島ダイヤモンドホテル

○近畿双松会の総会
平成19年11月18日(日) 梅田阪神百貨店11F グリーンルーム

○東部双松会の総会
平成19年10月中旬 (詳細は後日)

○米子双松会の総会
平成20年2月中 (詳細は後日)

各期だより

松高・北高16期遠征同窓会を終えて

我が十六期(昭和四十年卒)の遠征同窓会は、平成十八年七月十五日(出)松江東急インにて、ちよど百名の同窓生が集まり開催されました。

これに先立ち、金平 憲同期会会長より準備会の招集が掛かったのは約一年前でした。二十名近くの各クラス幹事が集まり第一回目の会合が行われ、同窓会へのスタートが切られました。それ以後数回の幹事会が開かれましたが、会合の後のミニ同窓会さながらの飲み会が楽しみで参加したのは私だけではないと思います。

さて、当日はまず朝七時三十分スタートで二十名の有志の参加のもとゴルフコンペが開催されました。木村隆司氏が優勝をさらいました。

その後、十六時三十分集合で四十五名の希望者が集い新大橋南詰めの賣布(めふ)神社にて還暦厄払いを行い、青戸宮司さんよりお払いと祝いの言葉をいただき、心身の穢れを払い落とし身を清めた四十五名は、いざ向わんかなです。十八時三十分開始に先立ち全員写真を撮り本番開始です。

松江北高の校章旗が正面演壇を飾る中、金平会長との開会挨拶に始まり、ご来賓として来ていただいた松本幹彦双松会会長の講話に全員が耳を傾けました。続いて、泉 謙吉氏司会で物故された十七名の方々の名前が読み上げられ、悲しい思いを抱きつつ黙祷させていただきました。その後、ルーム毎に分かれたテーブルで久しぶりに会う

顔に昔を想い、それぞれが声高に歓談です。それにしても四十年余の歳月が過ぎたわけですが、よくぞ六十までと思う反面、あつという間に来たような感慨もあります。こんな風にして人生は過ぎてゆくものかもしれせん。

余興では、隠岐の知夫村から参加の西谷信幸氏が三味線を披露しつつ特別参加の隠岐の社の方々のしげさ節と踊りを堪能し会場は盛り上がりました。最後に全員で校歌「山脈浮かびて」を大合唱し、その勢いを持ってたまほとんど全員が二次会になだれ込み、更に三次会へは各々がネオン輝く夜も更けられた松江の街へと繰り出していました。でも終わらない一日でした。次回の同窓会は五年後ということでも再会を約しましたが、これまでもいつも金平同期会会長のお世話があつたお陰で開催できたことを感謝しつつ、また、皆が元気で再会できることを切に願うところでです。(長谷川 宏)

北高23期卒業35周年の集いを開催

今回は、山陰の霊峰「大山」を舞台に同期会を計画しました。七月七日の朝、大山登山に挑もうと猛者六名が同期会開催場所である大山レックホテルに集合しましたが、あいにく雨。ホテル内でコーヒーを飲みながら雨が止むのを待っていました。結局止まずに断念し近隣散策に変更しました。幹事も交えてブルーベリー園で唇が紫色になるまで摘み取りながら食べた。みるくの里で人気のソフトクリュームを食べたり、ホテル脇の大野湖を周遊したりして大山での森林浴を満喫しました。夕方五時より受付開始、大野湖畔で記念写真を撮影後、総

勢五十一名が集い開宴。玄行君の司会の中、物故者への黙祷、福間君の挨拶、D女史のオペラ歌唱による乾杯と進行していきました。その後、懐かしき友を求め談笑したり、三年生時のクラス毎に記念撮影したり、一人ひとり近況報告を話したり、楽しい時を過ごすことができました。

翌日は、宿泊者の中からゴルフ組と観光組などに分かれ行動しました。観光組は、境港の水木ロード散策、一般公開されていない美保関灯台内部を海上保安部の方より説明を受けたたり、佛国寺にある国の重要文化財「仏像」五体を拝観したり、美保関神社拝殿、醤油アイスを食べたり、福間館で鰻丼をいただいたり充実した一日でした。還暦には全員で大山登山をしようとする誓い散会しました。

30代までの松江北高OBs OG会を開催

日時…平成19年1月14日19時、場所…東京・渋谷、人数…男性28人、女性12人、年齢構成…19歳〜33歳、どのような内容であったか…出雲弁でワイワイおしゃべり! みんなで「ソーイダ節」をやったりもしました! 感想等…

双松会のみならず、こんにち原稿依頼を受けて、改めてふるさとに想いを馳せながら、私達の活動を紹介します。

今年の一月東京渋谷にて、三十代までの「松江北高OB&OG会」を開催致しました。昨今の不審な情報飛び交う中、如何わしい集まりではないということをお伝えながら、四人の幹事で一人ひとり集めていきました。この度は「mixi」というインター

ネットのコミュニティーサイトでも集めたということもあり、顔見知りではない方にもご参加いただいたからです。四十人も、偏に「北高生である」という思い、母校愛があったからだと思います。

日本もこの十五〜十六年くらいの間、人間の感情・思考が「心」と「道徳」を置き忘れてきたような事件が多くあるような気がしています。

その悲しい世の中で特に島根の出身者の良いところは東京で肌身感じます。それがこの県民性、いいところです。

最後に、東京行きを考えられている学生の方、または親御様へ。東京で活躍している北高出身者はそれはそれは多数おられます。Uターンもするときは、まずし、夢と現実の間で葛藤もします! 「離すこと」が「話すこと」になることもありますが!

期待は不安なくしてあります! 「ここに集まった全員は少なくとも親御さんをおつて暮らしています。ご安心を!

「ふるさと」の山に向ひて、言ふことなし、ふるさとの山はありがたきかな

今年の八月には、「ゆかたで集まれ!」というコンセプトの下の第二回の集まりを企画致しております。幹事…錦織康之、青山志津、和田知大、広野誠二

広島双松会第二回総会及び懇親会のお知らせ

日時 平成19年10月27日(土)

16時〜(受付15時30分)

場所 広島ダイヤモンドホテル

会費 7千円

連絡先

TEL082184211416 石原通弘

双松会百三十周年記念総会を開催

平成十八年十一月十八日

島根県立松江北高等学校 創立百三十周年記念総会

日時 平成18年11月18日(土)

会場 ホテル一畑 平安の間

●日程

- 記念式典
・開会のことば
・物故者慰霊黙祷
・会長挨拶
・学校近況報告
・来賓祝辞
・功労者表彰
・校歌斉唱
「赤山健児の歌」
「松江北高等学校校歌」
閉会のことば

記念講演

- ・演題「海運を通して見た世界経済」
・講師 芦田 昭充氏
第13期卒
(昭和37年度卒)
株式会社商船三井
代表取締役社長

アトラクション

- ・合唱部および弦楽同好会による演奏

懇親会



双松会百三十周年記念総会のご報告

双松会常任幹事 第18期 石飛 裕

平成十八年十一月十八日、双松会百三十周年記念総会が、松江中学、松高・松江北高卒業生及び教職員約三百六十名の出席のもと、ホテル一畑において盛大に開催されました。式典は、松本幹彦会長の挨拶に始まり、来賓各位より御祝辞を頂戴し、前双松会会長井戸内正氏の長年にわたる貢献に対し功労者表彰がなされ、松江中学と松高・北高卒業生がともに「赤山健児の歌」と「北高校歌」を声高く斉唱しました。続いて、松高十三期卒の橋商船三井社長 芦田昭充氏の記念講演「海運を通して見た世界経済」が行われ、元校長兼折 博先生による講師紹介とともに、最新の世界経済情勢を興味深く拝聴いたしました。

松江北高の合唱部と弦楽同好会による歌唱や楽器演奏を聴いて時間を過ごした後、懇親会に移りました。松高十三期卒、栗原康郎氏の軽妙な司会により開始、兼折先生の乾杯の御発声で一気に盛り上がり盛大な宴会に突入しました。懐かしくも楽しい時は過ぎ、山本隆志副会長の万歳三唱で総会を終えました。

なお、記念総会に併せて十年ぶりに、同窓会名簿「双松」を改定発刊しました。同窓生の動向を個人情報保護法のもとに可能な限り記載しています。ご購入をお願いします。問い合わせは事務局まで。

双松会総会体験記

第47期 野津 良幸

北高卒業以来気付けば十年以上。東京の大学へ進学して就職も県外だったこともあり、全く母校と接点のないままに名ばかりのOB。そんな私がこの度双松会総会に出席した。

地元の友人たちは総会に興味がないこと、当時滋賀に住んでいたことなどマイナ要素と葛藤していたが、結局参加を決めたのは、妻子が不在で危うく一人寂しく誕生日を過ごしかけたこと……ではもちろんなく、中小企業の一サラリーマンとして、北高OBで東証一部上場企業である商船三井の芦田社長のお話が聞きたかったから。

当日の講演は、芦田社長がユーモアたっぷりに日々の社長業務についてお話くださったため、非常に身近に感じられて興味深いものだった。懇親会では同じテンプルの先輩にそのかざされて、図々しくも芦田社長にご挨拶して名刺交換までできて大変感激した。また、高校時代の恩師、部活の先生、ベンチャー企業の社長など、いろいろな人と話ができたい刺激となった。同年代や知り合いもおらず余り気が乗らなかつたが、雰囲気も大変フレンドリーで、そして改めて母校の歴史の重みと誇りを感じられた十分満足した。今後は機会があれば積極的に参加したい。また、これを読んで興味を持った方がたくさん参加してもらえたらなればと強く願っている。

平成十九年度 役員会報告

七月十六日(月)十六時から、『サンラポーむらくも』において松本会長を議長に次の議題について審議が行われた。参加者は常任幹事十七名、各期幹事三十四名、学校から校長・教頭はじめ校内幹事九名、計六十一名であった。審議終了後十七時から同会場にて懇親会には五十名が参加し、盛会となった。

- 一、平成十八年度会務報告、会計決算報告、監査報告
 - 二、創立百三十周年記念総会開催報告、決算報告、監査報告
 - 三、双松会役員選出について
 - 四、平成十九年度会務計画、同予算(案)審議
 - 五、「双松会会報」の発刊に關する諸経費援助のお願いについて
- 以上の議題についてほぼ原案通り承認された。

平成十九年度双松会役員

- 顧問
柴田 午郎 (松中44期)
兼折 博 (松中52期)
金築 修 (松中61期)
井戸内 正 (松中65期)
- 会長
松本 幹彦 (松高1期)

副会長

- 山本 隆志 (松高6期)
青山 幸子 (松高7期)
田中竹次郎 (松高13期)
金津 任紀 (松高16期)
管野 恵子 (松高22期)
佐藤 健治 (松江北高校校長)

幹事長

- 庄司 肇 (松高11期)

副幹事長

- 金平 憲 (松高16期)
庄司 尚史 (松高23期)

監事

- 山口 榮一 (松中67期)
古瀬 誠 (松高16期)

常任幹事

- 井原 泰 (松高3期)
長廻 和助 (松高14期)
長野 順子 (松高16期)
石飛 裕 (松高18期)
高尾あや子 (松高21期)
伊達 倫代 (松高23期)
福岡 隆 (松高23期)
室崎 隆司 (松高28期)
貴谷 紘行 (松高31期)
清水 豊 (松高34期)
馬庭 伸行 (松高34期)
金坂 康弘 (松高39期)
堀江佐智子 (松高39期)
安松 崇徳 (松高43期)
水本 和実 (松高46期)

事務局長

- 岩井 元康 (松江北高校教頭)

平成19年度 双松会会計予算書

〔収入〕

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
入会金	2,486,800	2,599,600	△ 112,800	全日制 延べ 11,184人×200円 (932名×12ヶ月) 通信制 100人×2,500円
繰越金	1,499,409	1,694,879	△ 195,470	平成18年度からの繰越金
繰入金	500,000	0	500,000	100周年記念基金より
雑収入	3,791	5,521	△ 1,730	預金利息等
合計	4,490,000	4,300,000	190,000	

〔支出〕

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
会議費	200,000	200,000	0	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,000,000	2,800,000	200,000	会報印刷・発送代、払込票
通信事務費	50,000	100,000	△ 50,000	役員会案内等
記念品費	550,000	400,000	150,000	卒業記念品・卒業証書用丸筒代
旅費	400,000	350,000	50,000	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	190,000	350,000	△ 160,000	
合計	4,490,000	4,300,000	190,000	

平成18年度 双松会会計決算書

収入総額 5,348,529円
支出総額 3,849,120円
差引残高 1,499,409円

〔収入〕

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
入会金	2,599,600	2,758,300	158,700	全日制 延べ 11,654人×200円 通信制 171人×2,500円
繰越金	1,694,879	1,694,879	0	平成17年度からの繰越金
繰入金	0	0	0	会報編集助成金会計より
雑収入	5,521	895,350	889,829	拠出金(29件)、寄付金、預金利息
合計	4,300,000	5,348,529	1,048,529	

〔支出〕

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
会議費	200,000	156,123	43,877	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	2,800,000	2,752,463	47,537	会報印刷・発送代
通信事務費	100,000	32,270	67,730	役員会案内等
記念品費	400,000	515,568	△ 115,568	卒業記念品・卒業証書用丸筒代
旅費	350,000	324,620	25,380	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	18,076	31,924	慶弔費等
予備費	350,000	0	350,000	
合計	4,300,000	3,849,120	450,880	

双松会名簿について

ご存知のとおり、昨年度、同窓会名簿「双松」を発刊いたしました。今回の発刊に際しては、個人情報保護に配慮しながら準備をすすめてまいりました。

今からでも結構ですので、購入をご希望される方は、すでに配布済みの購入の申し込み用紙をご利用いただくか、事務局へお問い合わせのうえお申し込みください。

会員の皆様へ

最近、会員の皆様のもとへ「島根県立松江北高等学校同窓名鑑」の調査カードおよび申込み用の往復ハガキが届いているようです。大阪の業者が取り扱っているようです。双松会そのものとは一切関係がありません。ハガキの中には、「学校・同窓会との関係はございません」と記載はされていますが、注意して読まないで見落としてしまいます。個人情報保護の観点からくれぐれもご注意ください。

平成十九年度 通信制役員会報告

日時 平成十九年六月二十二日(土) 十四時~十七時
場所 松江市殿町
「サンラボーむらくも」

議事

①平成十八年度会務・決算・監査報告
②平成十九年度会務計画案、予算案他、以上について原案どおり了承されました。

松江北高校通信制同窓会会計平成18年度決算報告

収入総額 865,613
支出総額 308,962
残 額 556,651
(次年度会計へ繰越)

【収入の部】

Table with 5 columns: 款, 項, 18年度予算, 18年度決算, 増減(Δ), 備考. Rows include 繰越金, 会費, 雑収入, 合計.

【支出の部】

Table with 5 columns: 款, 項, 18年度予算, 18年度決算, 増減(Δ), 備考. Rows include 会議費, 役員会監査会, 事業費, 事務費, 予備費, 合計.

松江北高校通信制同窓会会計平成19年度予算

【収入の部】

Table with 5 columns: 款, 項, 18年度予算, 19年度予算, 増減(Δ), 備考. Rows include 繰越金, 会費, 雑収入, 合計.

【支出の部】

Table with 5 columns: 款, 項, 18年度予算, 19年度予算, 増減(Δ), 備考. Rows include 会議費, 役員会監査会, 事業費, 事務費, 予備費, 合計.

北高生の活躍
第四回五島根県高等学校 総合体育大会結果報告

五月二十五日から六月三日まで、県内各地を会場に第四回五島根県高等学校総合体育大会が行われました。残念ながら、目標としていた五年連続総合優勝は達成できませんでした。各会場、北高選手の堂々たる戦いぶりは、見ている人に感動を与えるすばらしいものでした。

●男女総合Aグループ
一位 大社高等学校
二位 松江北高等学校
三位 松江北高等学校
●男子ソフトテニス
一位 大社高等学校
二位 松江北高等学校
三位 松江北高等学校

全国大会の結果報告

今年度のインターハイは佐賀県を会場に開催されました。ポールの女子シングルスカルで優勝した矢地さんをはじめ、出場した全ての選手が全国の舞台上活躍しました。(一)内の数字は学年
●男子ソフトテニス
○個人ダブルス
渡辺健太(3)・向井寛人(2)
渡辺健太(3)・大兼(名護)・沖繩
●男子バドミントン
佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」他 7/28(8)E
○団体
井上一成(3)・支行啓司(3)・佐々木 隆(3)・角田碧(3)・松尾亮佑(3)・仁島大毅(3)・松浦瑞樹(2)・松尾卓也(1)
1回戦2-1 三川崎総合科学(神奈川)
○シングルス
角田碧(3)
1回戦2-0 松浦勝山・福井
2回戦1-2 金合千葉敬愛・千葉
仁島大毅(3)
1回戦0-1 増淵(作新学院・栃木)
○ダブルス
角田碧(3)・仁島大毅(3)
1回戦2-0 田代・甲石(星陵・静岡)
2回戦2-0 鶴田・松本(唐津南・佐賀)
3回戦0-2 嘉村・園田(八代東・熊本)
ベスト32

07 結果報告
全国高校生文芸しまね

○社会科学習部門
文化連盟賞
○器楽・弦楽部門
吹奏楽部・弦楽同好会
総合開会式典音楽を担当
○放送部門
放送部
ビデオメッセージ「和菓子」発表
○新聞部門
新聞部
速報新聞の発刊
○写真部門
写真部 原あかり
「不滅公」奨励賞
○美術・工芸部門
美術部 作品出品
○日本音楽部門
華曲部 文化連盟賞
○小倉百人一首かるた部門
かるた部 ベスト8 奨励賞
○将棋部門
囲碁・将棋部 予選出場
○自然科学部門
自然科学部
物理同好会
ピンホールカメラの研究発表
○生活科学部門
生活科学部
和紙の作品展示

全国定通体育大会報告

卓球
(団体戦)
2回戦 松江北3-1 下関西(山口)
松江北3-1 水戸南(茨城)

男子ソフト 松江北1-3 飾磨工業(兵庫)
北尾浩樹1-3 高領(向陽東洋・愛知)
1回戦 飯田幸祐0-1 川元(興工業・広島)
飯田幸祐0-1 吉本(坂出工業・香川)
2回戦 湯浅浩司3-1 石川(那由山前・福島)
湯浅浩司3-1 藤田丸陣(東・福井)
4回戦 湯浅浩司3-1 上村(伊勢まなび・三重)
湯浅浩司3-1 中島(吉野野・愛知)
湯浅浩司0-1 中島(吉野野・愛知)
(個人戦)
稲田 愛一(吉野野・富山)
(陸上)
女子 砲丸投げ
井上佳奈 2位 記録 9 m 00
男子 100 m 永瀬亮太 2位 記録 11 秒 40
200 m 永瀬亮太 2位 記録 23 秒 21
バスケットボール
男子2回戦 松江北166-43 水戸農林(茨城)
男子3回戦 松江北78-80 福岡工業(福岡)
バドミントン
(団体戦)
女子 松江北0-3 津津第二(福島)
(個人戦)
女子 1回戦 江角広美0-2 佐藤今宮(工科・大阪)
バレーボール
女子 1回戦 松江北1-1 野沢南(長野)
剣道
(個人戦)
男子 1回戦 嶋子裕也1-0 木村
(団体戦)
1回戦 田中敦基(茨城)
2回戦 田中敦基(茨城)
3回戦 田中敦基(茨城)
(団体戦)
男子 予選リーグ
島根2-1 新潟B
島根4-1 静岡
島根2-3 栃木
予選敗退

「縁」大切に おもてなし



生徒実行委員長 3年 中村 仁美

全国高総文祭島根大会の生徒実行委員としての二年半という期間は、私にとってかけがえないものとなりました。

この大会に携わることで得たものは、とても大きく、今後の自分の人生に役立つものばかりで、大きく成長することもできました。

私は、委員長としての器を持つ人間では決してありませんでしたが、私を支えてくださった様々な方たちや、ついてきてくれた委員のみんなのおかげで、私は最後まで委員長という大役を果たすことができ、そしてこの大会を大功の内に終えられることができました。

多くの人に出会い、濃い経験をし、沢山の思い出をつくられたことを誇りに、生きていきたいです。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださったみなさん、支えてくださったみなさん、そしてこの大会に関わった全てのみなさんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

女子シングルスカル優勝 インターハイで得たもの



3年 矢地紗代子

私は今回が三回目のインターハイだったが、今年のインターハイは本当にすばらしかった。

サンプリングは配艇練習のときからあったし、レースの中継もあつた。そして何より人が温かいのがうれしかった。役員の方々の挨拶は毎朝さわやかな気分にしてくれたし、レースの前にコンビニへ寄ると、「勝ち進んでいってるんだね、すごいね。がんばれ」とレジの方が声をかけてくれた。宿のご夫婦は私の名前を覚えてくださり、テレビ中継でいつも応援してくださった。

温かいそのご夫婦のおかげで、その日の疲れをしつかりととることができ、レースではいつも万全の体調で挑むことができた。本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。

レースには家族や四人の祖母、いとこも応援に来てくれて、佐賀の祖母は、「感動して涙が出たばい」と最高の褒め言葉をくれた。クラスメートからも応援メールが届いた。

決勝レースの後にはメールや電話が絶えなかった。家に帰ると果物、ケーキにステーキまで、

たくさんいただいた。おめでとう。本当にありがとうございました。

たくさんいただいた。おめでとう。本当にありがとうございました。去年のインターハイにクオドルブルで出場して六位入賞したクルー仲間であり、私の大好きな先輩も、私に会いに艇庫に来てくれて、たくさん話した。中継を見ながら先輩同士で電話をして喜んでいただけを聞いたときには涙が出そうだった。ポート部に入ってよかったと思うのはこの先輩たちに出会えて一緒に頑張れたことだと思うほど、一人だけの後輩だった私をたくさんかわいがってくれた先輩たちのことが私は大好きなのだ。もともと私はポート部に何の理由もなく入ってしまった。入部届けを出したことも、勧誘の声をかけられたときに思いつくほどだった。筋力トレーニングもろくにできなかったし、同年の女子が県内に一人もおらず、練習相手がいなかった。それでも私の目標は入部した時から日本一なんだと先輩に言っていたらしい。

そして今、その目標を達成してしまつた。ここに至るまでには、本当にたくさんの方の支えがあつた。学校の仕事で忙しいはずなのに、先生はいつも私と一緒にいた気がする。かなりのわがままを聞いてもらった。こんなに自由にやらせてくれる先生は他にいないだろう。家族にも全面的にサポートしてもらつた。父は私の専属コーチ。私があんまりの力を発揮できた理由のひとつは、普段の練習水域がよく荒れるコースであること、そして、父が私の練習につきあつて、細かいところまで技術面の指導をしてくれたからだと思つた。一年生のときからずっと、土日はほとんど私のポートの練習のためについでにやってくれた。母は毎日栄養満点の食事を作ってくれて、疲れた私を精神的に癒してくれて。兄はジュニア日本代表を勝ち取った私の尊敬する存在であり、目標だった。弟も生意気ながら応援してくれる。それから、地域のローイングクラブの方、県のポート協会の方、遠くに住む知り合い……。挙げればきりが無い。

そうしてたくさんの方に支えられながら練習に励み、初めて全国大会で優勝することができた。つまり、残りの全ては負けてきた。だから悔しさのほうが大変だ。それでも私は今年インターハイ優勝したことで大きな自信を得た。それは自分の力などではなく、自分を応援してくれている人がこんなにたくさんいるんだという自信である。これは私の心の大きな支えとなつてくれるに違いない。次の大会でも、そしてこれからの人生においても。

第59回 学園祭

あかつき 暁

仲間と刻むこの瞬間



平成19年度 前期生徒会長 2年 堀尾 祥子

今年準備期間中の天候が悪く、本番も雨天順延が心配されましたが、予定通りに八月三十一日から九月二日の三日間にかけて学園祭を行うことができました(北高生の日頃の行いが良かったのでしょうか)。

一日目は開会式や吉村作治先生による講演会、一年生による北高フォーラム、二日目には二年生によるR出し物や家庭クラブによる喫茶、北高コンサート、三日目には体育祭や北高名物の三年生によるページェント、後夜祭などを行いました。

各Rとも協力して、素晴らしい出し物や発表になつていました。また、今年から学園祭総合優勝や他学年からのアドバイスを設けたことで、学年を越えて協力し合うこともできたと思えます。

学園祭三日間はあっという間に過ぎていきました。短い期間ではありましたが、仲間と協力し合った瞬間が皆さんの心に残るものとなつたのではないかと思います。

本年度の進路状況

平成十九年三月の進路状況を報告させていただきます。

〔現在の入試環境の「様相」〕

平成十九年になり中央教育審議会(以下、「中教審」)は、義務教育課程での国数英体等の授業時間数の増加をはじめとする「ゆとり教育」からの方向転換を検討素案として提案しました。現高校三年生は、中学校入学当初から現行学習指導要領に従い学習三割削減・学校週五日制がなされた世代です。削減された内容は高等学校の教育内容となっております。

その一方で、国立大学協会(以下、「国大協」)を中心に、現在の大学入試が直面する問題は、「少子化」と高校での必修単位の削減と科目選択の幅の拡大の結果として、「基礎的学力が低下」したまま容易に大学に進学できることにあり、その状況の下で、受験者や入学者を確保することを目的とした大学間の競争が入試制度の形骸化をもたらす可能性があるとして分析しています。平成二十二年度以降の入学者選抜の基本的方向として、大学の学生編成と教育課程改革を前提に、文系・理系区分撤廃を含め、高校で基本的教科・科目を普遍的に履修し、大学で総合的な教養教育を受け、さらに先端的学術分野の成果を修得しうる学生を求めるところを教育再生会議に意見しています。平成十七年までに国立大学の多くで、大学入試センター試験の受験科目を多教科・多科目にしたり、近畿圏を中心に一部の医学部医学科では理科三科目を受験科目に据える場合もあります。以上

のことからも、益々、高等学校における学びの質・量両面で向上が要求される現状にあります。〔松江北高の不遇〕

さらに、受験機会の複数化、入試形態・方法の多元化という「流行」に対応しつつも、松江北高の教育理念は「不易」で、ぶれることはありません。本校では、大学合格をはじめとする高校卒業後の進路確立は通過点と考え、次のステージでの教育・研究で力を発揮し、将来社会貢献できる人材・生涯にわたって学び続ける人材を育成し、自立して自己実現をはかることを目的としています。ここ

赤山の地で先輩方によって築かれ、脈絡と受け継がれてきたように、一度しかない多感な青春期に、幅広い学び、部活動、生徒会活動などを通じて、その道で苦勞しながら自らの力で困難を乗り越え、目標を極める体験を体現させ、それは将来の生き方の礎となる原体験となります。「質実剛健」の伝統を受け継ぎ、あえて二兎を追う「文武両道」の精神を校是とし、「知情意」が同化し一体となった、心身共に健康で逞しく、気概をもった若人の育成を目指し続けます。

〔今春進路状況の報告〕

今春卒業生は、三年生の春県総体四連覇を果たしました。開幕直前は闘志を胸に秘めた淡々とした振る舞いで、結果、多くの競技で入賞を果たし、総力戦で勝ち取った四連覇でした。九月学園祭後は質の高いページェントをやったのけ、事が終われば余韻を残さず、鮮やかな切り換えを果たし、学びにも集

団としての気迫を感じる姿勢がありました。十月末、本校も未履修問題に該当し、時数不足の科目の授業時間補充を行いました。入試にむけ本腰を入れるべき時期に水を差すことになり、卒業生の皆さんに多大なる負担と迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。双松会会員の皆様にもご心配をおかけしました。普遍的な教育の追求を誓い、範となる学校としての王道を進むことを決意した次第です。その中、卒業生は冷静に対応し、各自の受験に向かいました。進路状況は表の通りです。

合格者数は東京大学五名、京

進路状況

平成19年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成18年4月集計)

卒業生	平成17年3月			平成18年3月			平成19年3月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	198	68	266	211	34	245	175	39	214
公立大学	27	9	36	44	6	50	31	11	42
私立大学	349	207	556	266	77	343	275	58	333
短期大学	45	3	48	65	1	66	68	2	70
専門学校等	39	4	43	42		42	33		33
就職	1		1						
合計	659	291	950	628	118	746	582	110	692
クラス数	9			9			9		

都大学三名、旧七帝大と一橋大、東京工業大学を合わせた難関大学の合格者数は合計四十一名でした。私立大学は、早稲田大学七名、関関同立合計七五名をはじめ多数の難関大学に合格しました。大学生き残りの時代、人気将来性のある大学に志望も集中します。第一志望を貫く志と学びを追求し、全体としては現役生合格者数を減らすこととなりました。また、医学部医学科合格者は東京大学理三類をはじめ八名で、特に、本県の抱える僻地医療の医師不足解消に向け、有能な医療従事者を継続して育成することも本校の重大な役割であると考えております。

〔最後に〕

最近、本校と同一の流れをくむ地方公立伝統校の先生方とお会いすることがありました。その中で、「三十年後、卒業生が母校に帰ってこられる愛される学校でなければならぬ」との話題がありました。北高を卒業後、三十年後、在学する後輩へ卒業後の自らの歩みを語り、同じ学校に通っていた先輩の今に生徒が未来を重ね、希望を与え、後輩への助言者として、来校していただけたことが伝統校の財産であると感じました。百三十一年にわたる伝統の上に、多数の卒業生を輩出したことは、北高の宝であります。双松会会員の皆様にも愛される学校であり、勝手にではございますが、ご協力、ご理解をいただきたく思います。

少子化の波が北高にこんな早く及ぶとは思いませんでしたが、会報に携わる者として、クラス減は即収入減で大変なことです。毎年一五〇万円の不足が恒久的に発生する大問題に頭を悩ませていきます。編集会議では代案として双松会のホームページを創りそこに会報を載せることなども考えましたが、その作成、維持管理等を考え、また、今の紙の会報の配布の必要の有無の確認作業だけでも大変な費用が掛かるのではと思いましたが、当面今のままでいこうと考えます。いずれはインターネットと併用しなければならぬ時期が来るとの意見です。今まで会報発行まで全てを、校内幹事の先生方にお任せして来た付けが、今、回つて来たように感じます。卒業生には郵便局長さんも多くいらっしゃいますので、最大経費の郵券代も見積もりをしていただき、安くなる方法も探していただきましたが、限度があります。今は会員の皆様のご厚情におすがりするしかありません。経費のご援助よろしくお願い申し上げます。また、各期でいろいろな同窓会を開催されると思いますが、その際若干でも余剰金等がございましたら、是非双松会にご寄付いただきますようお願い申し上げます。事務局へご一報ください。会報は無くす訳にはいきませんが、皆様の熱いご支援を心よりお願い致します。今年の残暑は厳しいですが皆様ご自愛ください。座長 金平 憲(16期)

編集後記